

第6学年1組 体育科学習指導案

第2校時 場所 附属小体育館 指導者 是住 直人

1 単元名 トリプルゴールフットビー（ボール運動 ゴール型）

高学年のボール運動では、「自己の力やチームの特徴に応じた作戦を選びながらゲームを楽しむこと」が求められている。しかし、実際は、チームの特徴や作戦よりもボール運動の技能（ボール操作・ボールを持たないときの動き）を高めることに終始してしまい、課題を解決するための唯一解を求めるような場面が多かった。また、課題を解決したとしても、ゲームをすると解決策を生かすことができない姿もあった。これは、子どもたちが、自己の力やチームの特徴と向き合い、自分なりの解決方法を見つけるといことについては不十分だったからだと考える。

本学級の子どもたちに目を向けてみると、昨年度のベースボール型の学習を通して、自己の力やチームの特徴に応じた運動への関わり方を広げようとする姿があった。このような学習をしてきた子どもたちに、より複雑な状況判断が求められるゴール型のゲームにおいても、チームの特徴に応じた自分なりの運動への関わり方を広げ、ボール運動の面白さを味わってほしいと願う。

そこで本実践では、子どもたちが状況に応じて、シュートをするのか、誰にパスをするのかなどの判断しながら、相手と得点を競い合う「トリプルゴールフットビー」を行う。このゲームを通して、相手と得点を競い合うことを楽しみながら、仲間と連携し状況に応じた自分の最適な動きを選んだり、ボールを狙ったところに蹴る動きやボールを受けるために移動する動きを身に付けたりしていく。

2 単元について

- (1) 本単元は、「トリプルゴールフットビー」（ゴール型）に親しむ中で、パックを狙ったところに蹴る・受ける「ボール操作」や守備者と重ならない位置に移動する「ボールを持たないときの動き」を身に付けることをねらいとしている。さらに、ゴールまでパックを運ぶ作戦を考える中で、時間的・空間的・関係的な見方を働かせながら、チームの特徴に応じた自分なりの運動の楽しみ方を広げ、ボール運動への関わりを豊かにしていくことをねらいとしている。

この「トリプルゴールフットビー」は、3人対3人で行うゴール型のゲームである。子どもたちは、コートのエンドラインとコート中央に設定されたゴールを狙い得点を競っていく。攻撃の際には、自分の状況と自分の力を加味し、「どこにシュート打つと得点が決まりそうか」、「だれにパスを繋ぐとチャンスになるか」ということなどを判断しながらゲームを行うこととなる。

このゲームの最大の特徴は、ゴールを三箇所設置していることである。ゴールが三箇所になることで、どこからでもシュートを狙えるようになる。そのため、常にシュートすることを意識しながら、ボールを持っている場所と守備者との関係を見て、シュートをするのかパスをするのかという判断をして、最適な動きを試行錯誤することができる。と考える。

- (2) 子どもたちはこれまで、ベースボール型のゲームにおいて、打球を捕った位置や走者の位置などを視点とし、状況に応じた最適な動きを追求する学習をしてきている。しかし、コロナ禍の影響もあり、攻守が入り乱れるゴール型の運動での学習は十分に親しむことができていない。そこで、本単元では、ゲームを工夫し、技能面と思考面の難しさを軽減することで、ボール操作とボールを持たないときの動きを学習しやすくする。その中で、ゴールの位置、味方や守備者の場所などに着目し学習を深め、今後のボール運動や中学校以降のボール運動にも繋げていく。

- (3) 単元に関する子どもたちの実態は次の通りである。（調査人数35人、1人欠席）

- ① すべての子どもが4～5m程離れた人や場所を狙って蹴ることができる。長い距離でも蹴るこ

とができる子どももいるが、長い距離を狙ったところに蹴ることができる子どもは少ない。

② 自分のチームや他チームの動きを共有しながら学ぶことに関して、抵抗がある子どもはほとんどいない。

(4) 指導にあたっての留意点は次の通りである。

① 単元の導入時には、十分にゲームに取り組む時間を確保し、やってみる中で変更したいルールなどを聞き取り、柔軟に調整していく。また、このゲームの難しそうなおとろや面白そうなおとろを言語化し共有することで、「判断しながら動く」というこの単元における中心的な課題に向かうことができるように、学習の方向付けを行うようにする。

② ゲームをする中で、子どもたちから表出された「いつシュート（パス）するとよいかわからない」「目の前がこんな状況のときどうしているのか」などの困り事や思いを見取り、全体で共有しながら、課題設定を行っていくようにする。ただ、チームや個人によって困り事は様々であるため、課題として取り上げるものは「〇〇な場面（状況）ではどういう攻撃をするとよいか」ということに絞り、その状況における最適解をそれぞれに試行錯誤することができるようにする。

③ 本時では、体育日記の「2点ゴール付近でボールを持っているが、守りがいてシュートすることができない」という困り事を共有し、「この状況でシュートするには、どのような作戦がよいか」という課題を立ち上げていく。試しの場では、兄弟チームで実際に動きを試技しながら、チームごとに納得できる作戦を追求できるような場を設定する。また、解決策を共有する際は、仲間の位置や守備者の位置、ゴールの位置などを明確にしながら、その作戦のよさを問い、状況に合わせたよりよい判断について理解を深めることができるようにしていく。

3 単元の目標

(1) 狙ったところにパックを蹴ったり、シュートしやすい場所に動いてパックを受けたりすることができる。

(2) ボールを持っていないときの最適な動きを見つけ、考えたことを友達に伝えることができる。

(3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守って助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたりしてゲームを楽しもうとしている。

4 指導計画（7時間取り扱い）

学習活動	主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援	時間
1 学習の見通しをもち、今の自分たちに合うように場やルールを工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲームに十分親しませ、この単元で身に付きそうな力や課題となりそうなおとろを言語化させることで、子どもたちが見通しをもって学習を進めることができるようにする。 ○ 場やルール上の困り事を、ゲームに親しむ中で、全体で共有し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。 	2
2 よりよい作戦を考えながら、ボール保持者とボールを持たないときの動きを明らかにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育日記の記述や動画から困り事を見取り、場面の状況を提示したり、子どもに話させたりしながら、課題を設定する。 ○ 子どもたちの必要感に応じて、蹴る技能や受ける技能を高めるための時間を設定する。 ○ 毎時間、体育日記に解決したことや次時に明らかにしたいことなどを記述させることで、子どもたちが学びを調整しながら、主体的に学ぶことができるようにしていく。 	5 本時 3 — 5

5 本時の学習

(1) 目標

2点ゴール付近の状況における得点に繋がる動きを考え、試す活動を通して、チームで連携しながら得点を取るための最適な作戦を見つけ、ゲームに生かすことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
7	1 準備運動をして、それぞれ練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 狙って蹴るのをもっと上手にしたいから、友達と二人組でパスする練習をしよう。 ○ 実際のゲームみたいにして、素早く判断しながらどんどんパスを出す練習をしよう。
8	2 本時の課題を把握し、試してみたい動きを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゴールの近くまでは、攻めることができるのに、あとちょっとの所でシュートが打てません。 ○ たしかに、僕も同じようなことあったよ。 ○ ゴールキックのボールを奪ったあとも、似たような状況になるときがあります。 ○ 守りの人と近いからシュートが打てないね。 ○ 周りの仲間が動いてパスをもらったら、シュートできるんじゃないかな。 ○ 私はどこに動けそうかな。
10	3 試しの場で試す。 (1) グループで試す。 (2) 全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 反対側のゴールの所で待っているのは？ ○ いいと思う。けど、パスの距離が近いとすぐに守りが来て、シュート打てなくなるかもよ。 ○ じゃあ少し、離れたところで待ってみようかな。 ○ 後ろにパスする作戦を試してみる？ ○ 後ろにパスしてから、もう一回パスを返したら、守備の人も移動して、シュートできるんじゃない？ ○ 後ろにパスしたら1点のゴールも空いているよ。 ○ 反対側に動いてパスをもらおうとよさそうです。 ○ でも、守りがすぐ来るよ！ ○ もらったらすぐにシュートするのも大切かも。 ○ そもそもゴール前でパックを止めるから、囲まれる。ゴールの前は止めずにすぐ打った方がいいよ。
15	4 試合をする。 (3分×4試合)	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな動きが出てきたな。僕はどの動きを試してみようかな。 ○ 私たちのチームは、すぐに蹴る作戦もできそうだからそれをやってみようか。
5	5 学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボールを持っていないときの動きがわかってきました。少し横に広がってボールをもらいたいです。 ○ もらってすぐにシュートを出すと得点がとれました。けど、失敗することもあったので、次はそこを練習してできるようになりたいです。



子どもたちはこれまで、判断することの難しさと面白さに触れながらゲームに親しんできました。しかし、ゴール直前の攻防においては、守備者が多くシュートすることができない状況も出てきました。そこで本時では、状況を2点ゴール前に絞り、ボールを持たない人が横に広がったり、後ろに下がったりしながら、シュートに繋げるための作戦を作り直していきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示，教材・教具，評価）

- ロードマップで思い描いたなりたいた姿に近づけるようにするために、これまでの学習で見つけたり紹介したりしてきた練習方法の中から、必要な練習をチームごとに選ばせて活動をさせ、必要感のある技能を高めることができるようにする。
- 体育日記の「2点ゴール付近でボールを持っているが、守りがいてシュートすることができない」という困り事を共有する。その後、動画、静止画などを見せ、ゴール付近の守備者の位置を確認しながら整理し、この状況では、どのような作戦がよいかという課題を立ち上げていく。
- 必要に応じて、子どもたちを実際にコートに立たせ、ゲームの状況をより把握できるようにし、試しの場での活動につなげるようにする。

【教具】

- 学びの足跡
- iPad
- 写真
- モデル図
- 作戦図
- テレビ

2点のゴール前で、シュートをするには、どのような作戦がよいのだろう。

- 作戦シートには、自チームや相手チームのポジションや動きを絵、言葉、矢印などで書かせておくことで、ボールを持っている人の動きとボールを持たない人の位置や守備者の位置、ボールの位置などを視点としながら試すことができるようにしておく。
- 試しの場では、課題となる場面を兄弟チーム内で試す。その際、子どもたちの動きを見取り、空間的・関係的な見方を働かせ試行錯誤している動きや作戦を価値づけるようにする。
- 試しの場の子どもの様子を見取り、ボールを持っていない人の動きを工夫した作戦（反対側の2点ゴールにパスをして素早くシュートを狙う、相手の守りがいない後方に下がってシュートを狙うなど）を試しているチームを全体で取り上げるようにする。そこで、動きのよさを全体に問うことで、ボール保持者の位置、ボールを持たないときの動き、守備者の位置、ゴールの位置などの空間的・関係的な見方を働かせながら、状況に合わせたよりよい作戦を共有できるようにしていく。
- 言葉による説明だけでは動きがわかりにくい場合には、試技やスロー再生などで紹介させ、動きとその意図を関連付けながら共有することによって、自分たちの作戦のよさを再確認したり、他のチームの作戦のよさに気付いたりすることができるようにする。
- 試合を行う前に、チームごとに自分たちの作戦を練り直す時間を設定することで、試しの場や全体での共有で明らかになったことを作戦に反映し、ゲームに生かせるようにする。
- ゲーム中は、それぞれのコートの様子を見取り、ボールを持っていないときに、パスをもらえる場所へ移動して、パスを受けてシュートにつなげようとする動きを評価していく。
- 本時の学習で、学んだことや考えの変化などを共有し、価値づけることで、自分やチームの変容や学習の深まりを自覚できるようにする。

【評価】

ボールを持っていないときに仲間からパスをもらうための動きを考え、友達に伝えることができる。（観察・記述）